

## 低容量化学療法併用ハイパーサーミアの免疫学的予後予測因子について

玉名地域保健医療センター

赤木純児、井尾健剛、村上順平、上門仁美、藤丸佳子、龍井奈央

以前、進行胃癌で、CD57 陽性の T 細胞 (CD57<sup>+</sup> T 細胞) が独立予後不良予測因子になることを報告した。さらに、活性化自己リンパ球療法において CD27 (early effector-memory T cell marker) を加えて検討したところ、高い細胞傷害活性を持つ CD27 陰性の CD57<sup>+</sup> T 細胞 (CD27<sup>-</sup>CD57<sup>+</sup> T 細胞) が予後良好に関与することを見出した。当院で低容量化学療法併用ハイパーサーミアを行った 44 例で検討すると、PR 13 例、SD15 例、PD16 例で、奏効率 29.5%、臨床的有效率 63.6%であった。PR, SD 症例では、28 例中 23 例で CD27<sup>-</sup>CD57<sup>+</sup> T 細胞が高値であり ( $p=0.009$ )、多変量解析の結果、CD27<sup>-</sup>CD57<sup>+</sup> T 細胞は独立予後良好因子であった ( $\text{Exp(B)}=0.235$ , 95%CI 0.07~0.789,  $p=0.019$ )。また、ハイパーサーミア後に、約 6 割の症例で CD27<sup>-</sup>CD57<sup>+</sup> T 細胞が増加していた。これらの結果は、低容量化学療法併用ハイパーサーミアが CD27<sup>-</sup>CD57<sup>+</sup> T 細胞を増加させることで予後の改善に寄与していることを示唆している。